

2022 年 9 月 21 日(水)

第 33 回廃棄物資源循環学会研究発表会特別プログラム

「旨い焼酎を飲み続けられる持続可能な社会 ～地域特性に応じた循環経済への移行～」

日時： 2022 年 9 月 21 日(水) 15:00～17:00

場所： 宮崎大学 教育学部 L111

実施形態： ハイブリッド（現地開催+Webinar によるオンライン配信）

■ご講演者のご紹介

基調講演 15:05～16:00

「宮崎の強み:本格焼酎の魅力 ～製造からおいしい飲み方そして機能性・アルコール体質まで～」

水光 正仁 氏（国立大学法人宮崎大学 次世代研究者支援室長）

〔講師紹介〕

1974 年九州大学農学部農芸化学科卒業、1979 年同大学大学院農学研究科博士課程修了（農学博士）、1979 年宮崎大学農学部助手、1985-1987 年米国ロックフェラー大学博士研究員、1990 年宮崎大学農学部助教授、1997 年教授、2005 年副学長（目標・評価担当）、2015 年理事・副学長（研究・企画担当）、2021 年宮崎大学名誉教授・役員補佐（次世代研究者支援室長）、現在に至る。2000 年宮崎県文化賞、2015 年日本農芸化学会功績賞、2019 年日本オープンイノベーション大賞（農林水産大臣賞）、2021 年日本生物工学会功労賞受賞。研究テーマは翻訳後修飾および薬物代謝における硫酸化の意義・機能解明、宮崎の発酵と醸造。



■パネルディスカッション 16:00～17:00

《パネリスト》

湯浅 伸弘 氏（宮崎県環境森林部環境森林課 ゼロカーボン社会づくり担当 主幹）

話題提供 「宮崎県の 2050 年ゼロカーボン社会づくり」

〔講師紹介〕

1998 年に宮崎県庁に入庁。これまで県産品の販路拡大や農産物の輸出支援、自動車産業の振興など、県外や海外におけるイベントや商談会などによって、国内外に宮崎を売り込む業務に多く携わってきた。今年 4 月に新たに設置された現在の部署に配属。世界的な課題となっている地球温暖化対策である 2050 年ゼロカーボン社会の実現に向けて、宮崎県の強みを生かした再エネの導入拡大や省エネを推進するため、事業者や県民向けの支援などに取り組んでいる。



奥村 隆享 氏（霧島酒造株式会社 グリーンエネルギー部 部長）

話題提供「サツマイモ発電:「霧島酒造」が取り組む SDGs の一歩先」

〔講師紹介〕

1970 年宮崎県生まれ、1994 年芝浦工業大学工学部電気工学科卒、2003 年霧島酒造株式会社入社。焼酎造りの副産物である焼酎粕のリサイクルに一貫して携わり、メタン発酵設備や発電設備等のプラント建設、立上げ、運転管理に従事する。省エネや省人化、安全性向上に取り組みながら、更なる焼酎粕の有効利用に挑戦している。また、霧島酒造株全体のエネルギー管理企画推進者として、省エネを推進し、エネルギー原単位低減にも取り組んでいる。



田中 浩一郎 氏（大和フロンティア株式会社 代表取締役）

話題提供「竹笹を原料とした地域連携『笹サイレージ』事業」

〔講師紹介〕

1969 年宮崎県生まれ、1990 年都城コンピューター専門学校プログラム科卒、2005 年大和検査鋳業株式会社設立。地下貯蔵タンクや地下埋設配管の点検、メンテナンス業務等を行い、その後、畜産敷料チップ製造・販売で農業分野に進出し業容を拡大。農業者と関係構築が進む中で、宮崎県畜産試験場が竹チップを乳酸菌発酵させて牛の飼料として開発した研究成果を実用化し、飼料・肥料のいずれも使用できる商品を「笹サイレージ」という名称で商標登録し、2016 年から製造・販売を開始。2018 年大和フロンティア株式会社と社名変更。



《コーディネーター》

土手 裕 氏（実行委員長、宮崎大学 教授）

1984 年北海道大学工学部衛生工学科卒業、1989 年同大学大学院工学研究科博士課程修了（工学博士）、1989 年通商産業省工業技術院公害資源研究所研究員、1993 年同研究所主任研究官、1993 年宮崎大学宮崎大学工学部准教授、2003 年 Technical University of Denmark 客員研究員、2012 年宮崎大学工学部教授、2018 年～2019 年評価担当副学部長、現在に至る。畜産廃棄物からの肥効成分の回収、太陽光パネルのリサイクル、最終処分場からの環境負荷低減を研究テーマとしている。

